

* 国立科学博物館で展示されたブラッシャー天体写真儀

アーカイブ室新聞 278号にブラッシャー天体写真儀が里帰りしたという記事を書いた。アマチュア天文家の横浜在住の野地さんから、1999年6月に国立科学博物館で「すばる望遠鏡展」があった際、ブラッシャー写真儀が展示されていたと、その際撮った写真を送っていただいた。筆者は、その「すばる望遠鏡」建設のために1994年～2002年の間、ハワイにいたのでこの「すばる望遠鏡巡回展」を知らなかったのである。写真1が「すばる望遠鏡巡回展」で国立科学博物館に展示されていたブラッシャー天体写真儀である。



写真1 「すばる望遠鏡巡回展」で国立科学博物館に展示されたブラッシャー天体写真儀

現在、インターネットで「すばる望遠鏡巡回展」を検索してみると、愛媛県の総合科学博物館で巡回展「すばる望遠鏡～宇宙を探る新しい眼～」が期間 5月19日(土)～6月10日(日)で開催されたとあり、展示会場の様子の写真が掲載されている。その会場の写真にはブラッシャー天体写真儀はないから、ブラッシャー天体写真儀は地方の巡回展には参加しなかったのかもしれない。何しろ大きな、重い実物で模型ではないから輸送が大変だから巡回には加わらなかったのであろう。「世界天文年 2009」の巡回展でも、国立天文台が

提供した天頂儀、子午儀の実物展示は輸送が大変で東京と仙台の 2 箇所で打ち切られた経緯があった。この「すばる望遠鏡巡回展」で展示されたブラッシャー天体写真儀の解説板の写真もある（写真 2）。

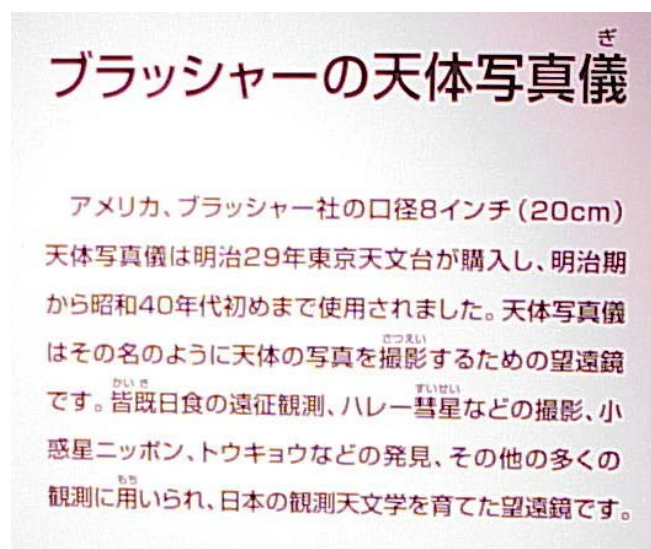


写真 2 ブラッシャー天体写真儀の説明板

この説明にあるように、ブラッシャー天体写真儀は明治 29 年（1896 年）にアメリカから購入された。国立天文台の過去の日食観測隊の記録によると明治 29 年（1896 年）8 月 9 日の北海道北見枝幸に寺尾寿台長ら観測隊の記録が下記のように記録されている。実は、この観測のために非常に急いでブラッシャーに制作を依頼して購入したのがこのブラッシャー天体写真儀のレンズであったことが 1924 年の天文月報第 17 巻第 9 号の平山信の記事にある。購入した 1896 年と符合する。

1896（明治 29）/8/9 北海道

寺尾寿、国枝元治、水原準三郎、中野徳郎（観測地：北見枝幸）

菊地大麓、芦野敬三郎、平山信（観測地：厚岸）

結果：曇

しかし、この平山信の天文月報（1924 年第 17 巻第 9 号）の記事には腑に落ちない記述がある。以下、関係する箇所は以下のとおりである。

「次にジミー君（ブラッシャーのレンズを磨いた人）と私（平山信）が直接関係したことを述べたい。嘗て東京天文台からブラッシャー会社へ八時のヘースチング型の写真鏡玉を注文したことがある。それは 1892 年 8 月北海道に於ける皆既日食を撮影する為であった。非常に時日が切迫して居たにも拘らず、よく間に合わせて呉れたので寺尾先生が枝幸でこれを使用することが出来た」。この記事はこのブラッシャーのレンズを磨いたジミー君の追悼の記事として書かれたものであり、レンズを購入して 30 年近くを経て書かれたものであるから、記憶のはっきりしていなかったかとも思えるが、皆既日食の年月日は動かしようのない事実であるから、記録を参照すればこのような間違いが起きるはずはないが、こ

のように記されている。この1924年の天文月報の記事と野地氏が送ってくれた写真にはもう一点驚くべき事実があった。これについては稿を改めて書きたいと思っている。

国立天文台天文機器資料館に里帰りし、展示されたブラッシャー写真儀が写真2である。

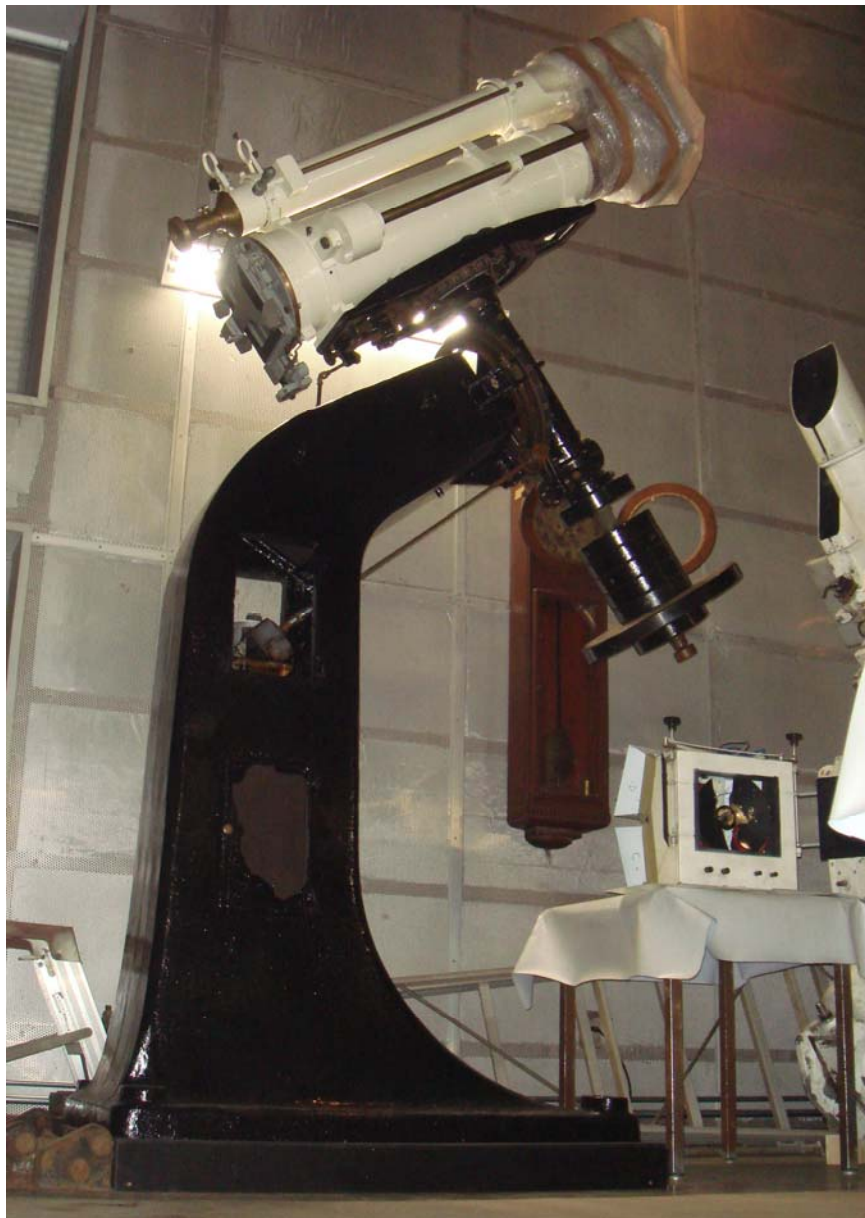


写真2 国立天文台天文機器資料館に展示されたブラッシャー天体写真儀